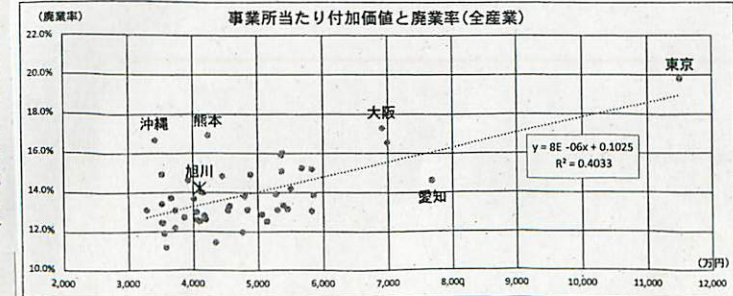
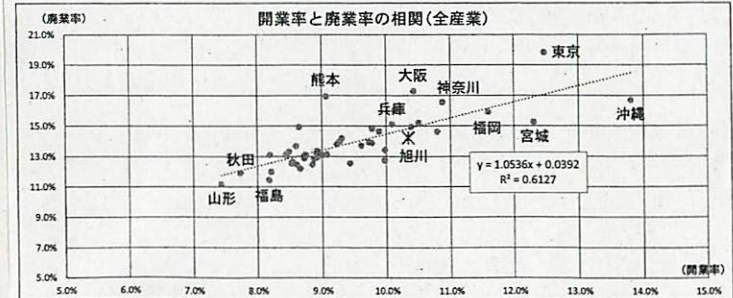


日銀旭川事務所長のみた  
旭川シーン  
SCENE 10

旭川市における  
開廃業(前編)

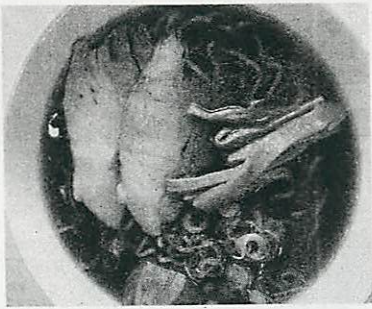
今回は旭川市の産業の新陳代謝の様子を探ります。総務省統計局の平成28年経済センサス活動調査から、全産業の民営事業所数で開業数や廃業数を除き、いわゆる開業率、廃業率を都道府県ごとに算出し、旭川市のデータを加えて、散布図を作ります。また、一事業所当たりの付加価値額を算出し、開業率、廃業率との関係も俯瞰しました。

開業率と廃業率では、廃業率も高くなっている。都道府県のデータが右上がりの線上に分布します。(A)廃業する事業所が多いと競争相手が減るので開業が増えるという関係や、(B)開業する事業所が多いと競争が激しくなり、廃業する先が増えるという関係は、実際には双方ともあるのではないかと、廃業率の高い地域が東京都や大阪府、低い地域が山形、福島、秋田県という様子を踏まえると、全体としてはBの関係が強いと想像されます。また、事業所当たりの付加価値額の高い地域で



別に見て今後の成長性を織り込み、足元の付加価値額対比で多くの開業、廃業が生じているといった仮説が考えられます。逆に、当地は高齢化が全国対比進んでおり、付加価値対比、事業承継が

多いといった仮説も考えられます。第三に、開業に対しては廃業がやや少ないように見受けられます。これは開業による競争激化が相対的に激しくないことを示している可能性があり、新設企業に押される既存企業が周辺地域で顧客を開拓できているとか、旭川でのビジネスはそれまでのお付き合いを大切に思い、既往取引先とのビジネス関係が相対的に存続しやすいという仮説が想像できます。なお、センサス統計は平成24年調査から



「The Legend of 190」(邦題「海の上のピエロ」)は、二スト「一九〇八年」は、豪華客船に捨てられ、船上で育った天才ピエロとを祈念しております。旭川で生まれ育った、多くの店、絶品、さる場所であつたからです。旭川の地場企業が大都市に飛び出し、さらに発展するのは大変喜ばしい話ですが、この旭川にとまて地域が沈まないように牽引する先も、これからさらに多数現れてくることを祈念しております。



【中本浩信(なかもとひろのぶ) 一九六三年東京生まれ。東京大学法学部卒。支店は鹿児島、神戸に勤務。二〇一八年八月から旭川事務所長。趣味は絵画鑑賞。